世界各国で賞賛を浴び続ける、中国伝統演劇×現代劇の話題作、遂に日本上陸！

東アジア文化都市 2019 豊島 スペシャル事業

中国国家話劇院『リチャード三世』

この度、2012 年に開催された「ワールド・シェイクスピア・フェスティバル」で好評を博し、世界各国で上演を続けている中国国家話劇院『リチャード三世』が、東アジア文化都市関連事業として、2019 年 4 月 5 日（金）～7 日（日）、東京芸術劇場プレイハウスにて日本初演いたします。中国の現代劇を牽引し続ける中国国家話劇院による、伝統演劇の技巧や文化的要素を盛り込んだ演出は世界中から賞賛されているのはもちろんのこと、中国国家芸術院団優秀演目賞、優秀俳優賞などを受賞し高い評価を得ている話題作です。

本公演情報をぜひとも貴媒体でご紹介いただけますよう、ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

INTRODUCTION

張皓越が演じる慎重で誇張のないグロスター公からは肢体不自由さは見られず、舞台を駆け、必要に応じてはひっそりと佇み、時には敵に怯える。いとも巧みに、「悪の化身」などではない、男性優位の宮廷の中で出世を企む中間管理職として非常に妥当なリチャード三世を演じてみせた。シェイクスピア劇において最も変身するヴィランに、不思議な説得力を持たせている
（The Guardian　★★★★）

英国のオリンピック・イヤーを彩った傑作、遂に日本初演！

2012 年、ロンドンオリンピック関連事業で「ワールド・シェイクスピア・フェスティバル」が開催された。その一環としてロンドン・グローブ座が企画した 37 の言語で 37 のシェイクスピア作品を上演する演劇祭「Globe to Globe」。日本からは地点による『コリオレイナス』が上演されたことで注目を集めたこの演劇祭で、本作『リチャード三世』は、中国の伝統的な演劇の技巧や文化的要素を盛り込んだ演出が「魅惑的だ」と絶賛され、高い評価を獲得。現在に至るまで世界各地で上演や再演を続けている。

中国伝統演劇×現代的視点の融合

中国で最も歴史があり、最大規模にして最多のレパートリーを誇る中国国家話劇院。国内演劇を常にリードし続けるカンパニーにおいて、現代劇の民族化、そして中国的表象の現代的表現を模索する演出家・王暁鷹は、初めてのシェイクスピア劇に向き合う上で、中国的な精神を表現しながら、現代的視点、表現方法を融合させた。
京劇をはじめ中国の伝統演劇は「写意」の芸術といわれ、俳優は象徴的な小道具しか持つことを許されず、自分の存在感だけで観客を引きつけ、自分の演技だけで舞台にないものをあるように見せる必要がある。この『リチャード三世』もまた、建造物のような大装置も、スポットも暗転も、めくるめく光の乱舞も舞台上には存在せず、京劇独特の「一卓二椅(いったくにい ＝ 机一つと椅子二脚)」といわれる、からっぽに近い舞台の上に、宮廷の密室やロンドン塔の牢獄、ロンドンの街角、そして血腥い戦場を、俳優が身一つで描き出していく。

張皓越

中国現代演劇を担う俳優陣　×　華麗な京劇スターたちの競演

主人公リチャード三世を演じるのは、TVドラマにも数多く出演している人気俳優で、本作で国家芸術院の「優秀俳優賞」を受賞した実力派の張皓越（ちょう・こうえつ）。また、本作のために中国国家京劇院から招かれ、京劇の繊細優美な台詞回しと現代劇的心理表現で高い評価を得る張鑫（ちょう・きん）のアン・ネヴィルが魅せる。また、チェン・カイコーやジャ・ジャンクーといった巨匠監督が作品を再現し、チェン・ツィーら有名俳優が審査員をつとめている、役者たちが演技力を競う中国の大人気テレビ番組「我就是演員」（訳：私は役者）で準優勝となった涂松岩（と・しょうがん）がバッキンガム公を演じるなど実力派キャストにも要注目だ。また、京劇には必要不可欠である打楽器奏者として、王佳男も名を連ねる。

公演概要

中国国家話劇院「リチャード三世」
作：ウィリアム・シェイクスピア　演出：王暁鷹（オウ・ギョウヨウ）
出演：リチャード三世：張皓越（チョウ・コウエツ）　バッキンガム公：涂松岩（ト・ショウガン）　エドワード四世：田征（デン・セイ）
マーガレット：佘南南（シャ・ナンナン）　アン／王太子：張鑫（チョウ・キン）ヘイスティングス：李曄（リ・ヨウ）
エリザベス：王顥樺（オウ・コウカ）　リッチモンド：李建鵬（リ・ケンホウ）クラレンス：王力夫（オウ・リキフ）
趨一正（スウ・イッセイ）、張志勇（チョウ・シユウ）、蔡景超（サイ・ケイチョウ）　打楽器：王佳男（オウ・ケイナン）

照明関連：温暁楠　音響：陳兵　衣裳：劉璇、温聡聡　メイク：申淼、甘玉婷　舞台装置：張新君、李少鵬
全体統括：周莉　舞台監督：王志強　テクニカルマネジメント：謝可
製作：中国国家话剧院

日程・会場

【公演日程】2019年　4月5日（金）19：00　｜4月6日（土）15：00★　｜4月7日（日）15：00
受付開始、ロビー開場：開演60分前／開場：各回30分前　上演言語：中国語（日本語字幕付）
★公演後、ポストパフォーマンストークあり（司会：飯塚容　通訳：福井官奈）

【会場】東京芸術劇場プレイハウス（東京都豊島区西池袋1—8—1）／03-5391-2111

チケット

2019年1月26日（土）午前10時発売
全席指定（税込）S席7,000円、A席・U25（25歳以下＊）4,000円、高校生1,000円
一般S席・A席　当日＋500円
＊未就学児入場不可　＊25歳以下は公演当日要年齢証明書
※車いすで観劇をご希望の方は東京芸術劇場ボックスオフィス TEL:0570-010-296 [10時~19時、休館日除く] までお問合せ下さい

チケット取扱い
■東京芸術劇場ボックスオフィス　http://www.geigeki.jp/t/
■東京芸術劇場　＜1階窓口＞　休館日を除く午前10時から午後7時まで
＜お電話＞　0570-010-296（ナビダイヤル）　休館日を除く午前10時から午後7時まで

＜東アジア文化都市関連事業＞
主催：豊島区、東京芸術劇場（東京都歴史文化財団）、公益財団法人ITI国際演劇協会日本センター、一般社団法人国際協力交流センター
協力：日中演劇交流話劇人社

東アジア文化都市 2019豊島
Culture City of East Asia 2019 Toshima
はらはら、どきどき、文化がいっぱい。

Tokyo Tokyo FESTIVAL

■本公演に関するお問い合わせ（一般）
合同会社syuz'gen
TEL: 03-4571-0773　FAX: 03-4333-0878
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5 丁目 6-10 gran＋ NISHINIPPORI 6 階

＜報道資料＞

プロフィール
中国国家話劇院

中国国家話劇院（National Theatre Company of China，略称 NTCC）は 2001 年 12 月、中国青年芸術劇院と中央実験話劇院が合併して発足。中国青年芸術劇院の前身の延安青年芸術劇院は 1941 年に創設されている。欧陽予倩（よせん）、廖承志、呉雪、舒強、金山、孫維世らの先達の指導、中央戯劇学院との密接な連携の下で中国話劇の伝統を現代に引き継いできた。2011 年に 880 席の大劇場と 300 席の小劇場が落成した。500 人を越える俳優陣を擁して年間公演数は約 1000 回を数え、中国を代表する国立劇場、国立劇団として活動を続けている。院長は周予援、副院長は景小勇（党委員会書記を兼務）、戈大立、田沁鑫、党委員会副書記・紀律検査委員会書記は白雪峰。

王暁鷹（おう・ぎょうよう）

人気・実力とも中国現代劇の最前線を走り続けている演出家。中国戯劇家協会副主席の任にあり、昨年まで「国家話劇院」の副院長も務めていた。1957 年安徽省生まれ、1984 年に中央戯劇学院演出科を卒業。中国で初めて演出家として博士号を取得、中央戯劇学院の教壇に立つ。中国現代話劇のほか京劇、越劇など伝統劇とのコラボレーションも試み、翻訳劇では『リチャード三世』のほか、アーサー・ミラー『るつぼ』、マイケル・フレイン『コペンハーゲン』などを演出。外国の劇団のためにブレヒト『コーカサスの白墨の輪』などの演出も行っている。著作は『虚構から詩的イメージへ』、『演劇の虚構性』、『演劇的思考』など多数。